

初冬の小国川



最上町赤倉地内

最上小国川流域では貴重な生物が確認されています。専門家のアドバイスを受け、環境に配慮しながら工事を進めています。



スズメ目 ホオジロ科の鳥です。

日本には夏鳥として飛来し、本州の中部以北で繁殖します。冬は南方に渡り、フィリピンや台湾、中国南部で越冬すると考えられています。

山地の林にすみ、非繁殖期には単独か小さな群れで見られます。昆虫や植物の種子などを餌にしています。

過去の洪水で被害を受けた方へのインタビュー

赤倉で旅館を営んでいるSさんは、これまで何度も洪水被害を受けました。過去の洪水の時の状況についてお聞きしました。

問) これまでの洪水の時の状況はいかがでしたか？

昭和57年の洪水の時は、川の水が一気に増水して、護岸がどんどん削られていきました。川側にあった玄関が徐々に削られてなくなっていったのが恐かったですね。川の轟音も凄かったですね。

駐車場では、腰の高さまで水が上がりました。

この時は、風呂場が半分くらい流されました。個人で許可を受けて、川に木の橋を架けていましたが、その橋も流されました。今の湯ノ原橋が工事中だったんですが、桁がやっと架かっただけで、歩み板とロープしかなかったんです。木の橋が流されたため、これを使ってやっとの思いで避難しました。

宿泊客を含めて30人近くいましたが、消防団の方が大勢きてくださって、一人一人を背負って、歩み板の上を渡って反対の岸に逃げたんです。夜9時頃でした。昼だったら、濁流が恐くて渡れなかったと思いますよ。夜だったので渡れたと思います。人が出なくて本当によかったです。でもお客さんには、本当にご迷惑をおかけし、申し訳なかったです。

翌朝、起きてから川を見たら、川の地形がまるっきり変わっていました。白っぽい石がゴロゴロしていましたね。

赤倉地区の方々には炊き出しをしていただいたりして、本当に助かりました、感謝しています。復旧には半月ほどかかりました。その間、営業もできなくて、本当に大変でした。



H6洪水状況 赤倉地内



H6洪水状況 赤倉地内

【用語解説コーナー】

堰(せき)；流水の取水、分水または放流、塩害の防止等を目的として、流水をせき上げ、調節するために河川を横断して造られる施設です。機能上からは、水位・流量を調節するゲート等の設備を有する可動堰と、有しない固定堰に分けられます。

良く聞く「頭首工」とは農業土木部門での用語で、堰と同じ意味です。

『最上小国川赤倉地区温泉影響調査報告会』を開催しました。

これまで最上小国川の治水対策については、「河道改修」「放水路」「ダム」の案で検討してきました。この中の河道改修案について、県では過去の工事の経緯から、赤倉地区では河床は掘れないと判断し、川幅を広げる方法で検討しました。しかし最近、河床を掘る治水計画もあるのではという意見が出されてきました。このため、より丁寧な説明が必要と考え、温泉影響調査を実施しました。

この調査方法と結果について、12月4日(木)午後7時から最上町中央公民館にて、最上小国川赤倉地区温泉影響調査報告会を開催いたしました。当日は、約250名の方々に参加していただきました。その時の報告内容について、お知らせいたします。

1) 調査方法と結果

電気探査

左岸山側から河川に向かって、地中の浅い部分に温泉源があることがわかりました。

振動による探査 + 試掘調査(岩盤を目で確認)

ゆけむり橋から赤倉橋付近にかけて岩盤が河床の浅い部分に分布していることがわかりました。

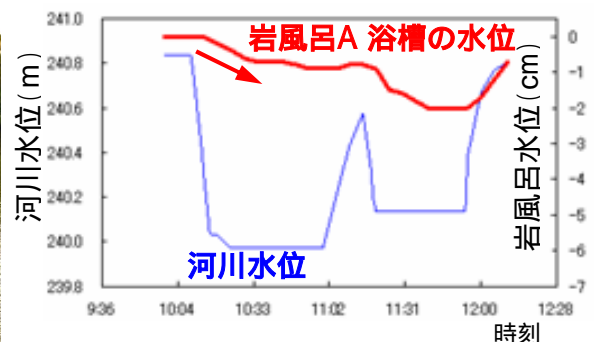
河床岩盤からの温泉湧出状況調査

川を締め切って排水し、河川の水位を下げたら、二つの岩風呂で温泉の湧き出す量が減り、水位が低下しました。また、川底では10箇所から、全体で約260ℓ/分のお湯が湧き出しました。

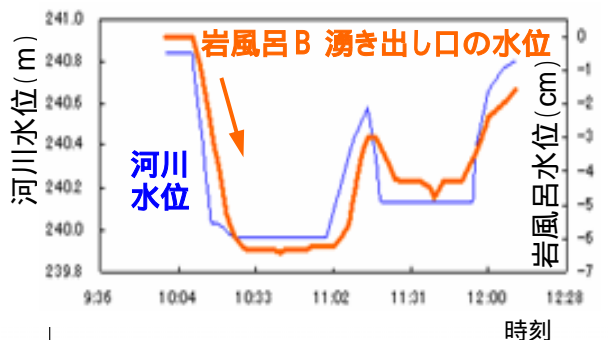


12月4日報告会

「河床岩盤からの湧出状況調査」については、地質や温泉関係の専門家から現地を調査いただいた上で、温泉への影響を検討していただきました。検討いただいた専門家の方々は、山形大学山野井教授・川邊教授、(財)中央温泉研究所高橋副所長の3名です。



河川水位を下げると岩風呂水位も下がる



2) 専門家の意見(考察)

仮に、河床の岩盤掘削を伴う工事をする場合は、掘削やそれに伴う振動で温泉水の湧き出す位置が変わったり、周辺岩盤にゆるみが発生するなどにより、現在の湧出機構の微妙なバランスを崩してしまう。

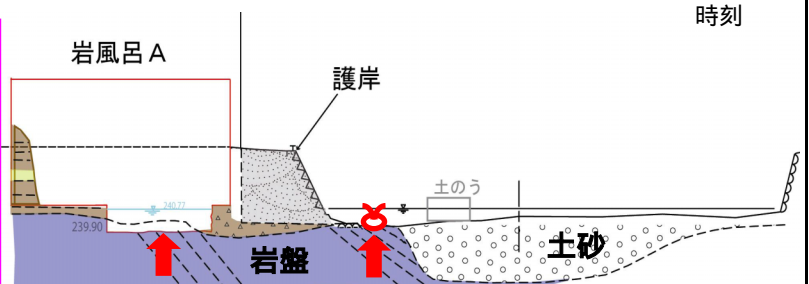
その場合、河川水位を回復させても温泉水の湧出量が変化する可能性が高い。

河川内の一部の水位を低下させただけでも源泉に対して影響を与えることが明らかになり、河床の岩盤や砂礫等を掘削することは源泉に対して著しい影響を与える恐れがある。

3) 治水対策についての県の考え

河床掘削により現在の水位を下げることや岩盤を掘削することは、源泉に対して著しい影響を与える恐れがあるためできません。

赤倉地区の治水対策は、「**穴あきダム**」により、**早期完成**をめざします。



報告会の詳しい状況は県のホームページをご覧ください。

発行：山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課 最上小国川ダム建設室
〒996-0002 山形県 新庄市 金沢 大道上 2034

お問合せ先 電話 0233-29-1407

Email - 【前画面を参考にして下さい。】

バックナンバー

創刊号・・・報告会のお知らせ
第2号・・・H19・H20調査内容
第3号・・・治水対策の手法
第4号・・・河川改修
第5号・・・温泉への影響